

記者発表(展示説明)のお知らせ

令和3年9月 22 日

各報道機関 様

京都府立丹後郷土資料館

特別展「“玉の輿”大名家の栄光と苦悩－徳川綱吉・桂昌院と宮津藩本庄松平家－」の記者発表(展示説明)を下記のとおり行いますので、お知らせします。

なお、当日御都合のつかない場合は、後日でも説明させていただきますので、事前に御連絡願います。

記

- 1 日 時 令和3年 10 月 23 日(土) 午前9時から
- 2 場 所 府立丹後郷土資料館
- 3 説明内容 別添開催要項のとおり

展示担当	資料課 稲穂 将士
電話	(0772)27-0230

令和3年度 京都府立丹後郷土資料館特別展 開催要項

- 1 名 称
特別展『“玉の輿” 大名家の栄光と苦悩—徳川綱吉・桂昌院と宮津藩本庄松平家—』
- 2 会 期 令和3年10月23日（土）～12月12日（日）
開館日数 44日間（会期51日のうち） 休館日 毎週月曜日
- 3 開館時間 午前9時～午後4時30分
※10月23日（土）・30日（土）、11月5日（金）～7日（日）は午後8時まで開館
※夜間開館期間中は当館周辺のライトアップを実施
- 4 会 場 京都府立丹後郷土資料館（京都府宮津市字国分小字天王山611-1）
- 5 主 催 京都府立丹後郷土資料館

6 開催趣旨

宮津藩本庄松平家は、宝暦8年（1758）以降明治維新まで宮津藩主を務めました。本庄氏は藩祖・本庄宗資が江戸幕府5代将軍徳川綱吉の母である桂昌院の弟であったため、綱吉に取り立てられ大名となります。桂昌院はもと“玉”という名前で、一説では八百屋の娘とされています。そこから将軍の側室まで登り詰めたことから、桂昌院は“玉の輿”の代名詞として知られます。また、宗資は桂昌院・綱吉のもとで寺社や朝廷儀礼の再興などに大きく関わりました。

2代資俊の時代にはさらに松平姓を与えられ、以降歴代藩主は松平姓を名乗り、幕府の要職に就くような家格にまで登り詰めます。その一方、このことが藩財政の悪化やそれに伴う一揆の発生といった、江戸時代後期における本庄家の苦悩の要因にもなりました。

本展示では、近年新たに発見された宮津藩本庄家関係資料を紹介し、激動の時代を生きた本庄家のあゆみを紐解きます。

- 7 主な展示品一覧（予定）◎重要文化財 ○府指定文化財 □市町村指定文化財
〈徳川綱吉・桂昌院と本庄宗資の時代—生類憐みの令と赤穂浪士—〉
絹本着色 徳川綱吉像（奈良県桜井市・長谷寺蔵）
絹本着色 桂昌院像（奈良県桜井市・長谷寺蔵）
○御触留 5 6番「古久保家文書」（京都市・京都府立京都学・歴彩館蔵）
引札（赤穂浪士討ち入りの図）（舞鶴市・舞鶴市郷土資料館蔵）

〈桂昌院・綱吉と宗資による寺社の再興〉

木造阿弥陀如来立像（桂昌院念持仏）および厨子（宮津市・大頂寺蔵）

絹本着色 隆光僧正図（長岡京市・乙訓寺蔵）

徳川綱吉筆 紙本墨書「福」（京都市・金蔵寺蔵）

徳川綱吉筆 紙本墨書「寿」（京都市・善峯寺蔵）

◎元禄十一戊寅歳日次記「賀茂別雷神社文書」京都市・賀茂別雷神社蔵）

〈出世を遂げる本庄家歴代当主〉

□本庄家譜（糸井文庫）（舞鶴市・舞鶴市郷土資料館蔵）

徳川綱吉御内書「宮津藩本庄家関係資料」（宮津市・個人蔵）

太刀 津田近江守助直銘と拵（京都市・善峯寺蔵）

◎濱松御領分絵図「宮津藩政記録」（京都市・京都府立京都学・歴彩館蔵）

〈本庄家の宮津入部とその治世〉

◎引渡目録「宮津藩政記録」（京都市・京都府立京都学・歴彩館蔵）

伝本庄資承像（宮津市・宮津市教育委員会蔵）

□丹後州宮津府志（糸井文庫）（舞鶴市・舞鶴市郷土資料館蔵）

□文政一揆破損「南京大皿」（与謝野町・与謝野町教育委員会蔵）

〈激動の時代を生きた第9代・宗秀〉

本庄宗秀甲冑着用像（宮津市・個人蔵）

本庄宗秀筆 紙本墨画「報恩謝徳」（与謝野町・個人蔵）

○乍憚口上（会津廻米一件に付届書）「三上家文書」（兵庫県神戸市・個人蔵（当館寄託））

本庄宗秀筆 紙本着色 蛭子像（伊根町・伊根町蔵（当館寄託））

太刀 銘来国俊（宮津藩本庄松平家伝来）（愛知県名古屋市・刀剣ワールド財団蔵）

8 関連事業

○文化財講座

11月6日（土） 午後1時30分から

「大出世を遂げた本庄宗資（仮）」

講師 藤本 仁文 氏（京都府立大学准教授）

11月20日（土） 午後1時30分から

「桂昌院ゆかりの善峯寺―近年の古文書調査の成果から―」

講師 母利 美和 氏（京都女子大学教授）

※各回定員30名 ※当日午前11時30分から先着順に整理券配布

○ぶらり丹後

10月30日(土) 午後1時30分から 集合：宮津市役所

「宮津城」 案内 森島 康雄(当館資料課長)

11月13日(土) 午後1時30分から 集合：宮津市役所

「宮津城下町」 案内 稲穂 将士(当館資料課)

9 協力機関(予定・敬称略・順不同)

乙訓寺、春日大社、賀茂別雷神社、籠神社、金蔵寺、山王宮日吉神社、大頂寺、東大寺、長谷寺、佛性寺、善峯寺、伊根町教育委員会、京丹後市教育委員会、長岡京市教育委員会、富士宮市教育委員会、舞鶴市、宮津市教育委員会、与謝野町教育委員会、京都女子大学文学部史学科、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、京都府立京都学・歴彩館、向日市文化資料館、天橋立観光協会、一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社(通称：海の京都 DM0)、国分自治会、国分天王会、刀剣ワールド財団

10 入館料

一般 250 円 小中学生 70 円 団体割引(20 名以上) 一般 200 円、小中学生 50 円

(11月5日(金)・6日(土)・7日(日)は、関西文化の日のため入館無料)

但し、次の方々は無料

・満 65 歳以上の方、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者の方、小中学校等の学校教育活動の場合。

また、府内にお住まいの方で、「きょうと子育て応援パスポート」を提示した小学生のお子さんを同伴された親または祖父母の方 1 名分の観覧料は無料。

11 その他

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、中止・変更・人数制限等を行うことがあります。

特別展

主の興 大名家 の

The Glory and Anguish of the "Marrying into the purple"
Daimyo Family: Tsunayoshi Tokugawa,
Keisyouin and the Honjo-Matsudaira
Family of the Miyazu Domain

徳川綱吉・桂昌院と宮津藩本庄松平家

栄光と 苦悩

徳川綱吉像（部分）
長谷寺蔵
※10/23～11/7の
期間限定展示

本庄宗秀甲冑
着用像（部分）
個人蔵

桂昌院像（部分）
長谷寺蔵
※10/23～11/7の
期間限定展示

2021年

10月23日（土）

▶12月12日（日）

ふるさとミュージアム丹後
（京都府立丹後郷土資料館）



文化庁 JAPAN CULTURAL EXPO
令和3年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

海の京都

丹後郷土資料館
ホームページ

- 開館時間 午前9時～午後4時30分
※10月23日（土）・30日（土）、11月5日（金）～7日（日）は
午後8時まで開館
※夜間開館期間中は当館周辺のライトアップを実施
- 休館日 毎週月曜日
- 入館料 大人250円、小人70円 団体割引あり
※65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※「きょうと子育て応援パスポート」が利用可能

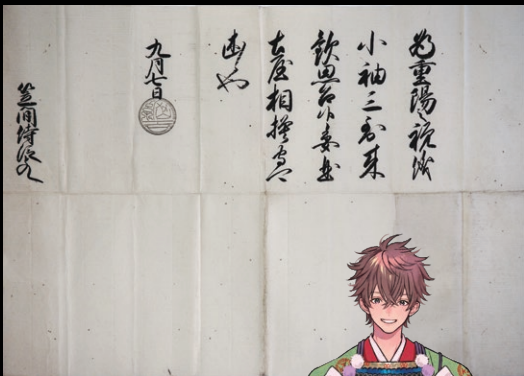
〒629-2234 京都府宮津市字国分小字天王山611-1
TEL 0772-27-0230 FAX 0772-27-0020
H P <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/>

*新型コロナウイルス感染防止対策を講じて実施しますが、感染状況により事業が中止または内容変更となる場合がございます。ご来館の前に当館ホームページもしくはお電話等でご確認ください。

徳川綱吉・桂昌院・宮津藩本庄松平家
ゆかりの品を公開



④



⑤

会場には第9代藩主
本庄宗秀のキャラクター
パネルが初登場!

イラスト：棉きのし



関連イベント

文化財講座

- 11月6日(土) 13:30～ 「大出世をとげた本庄宗資」
講師：藤本 仁文氏(京都府立大学准教授)
- 20日(土) 13:30～ 「桂昌院ゆかりの善峰寺
～近年の古文書調査からわかったこと」
講師：母利 美和氏(京都女子大学教授)

*各回定員30名 *当日午前11時30分から先着順に整理券配布

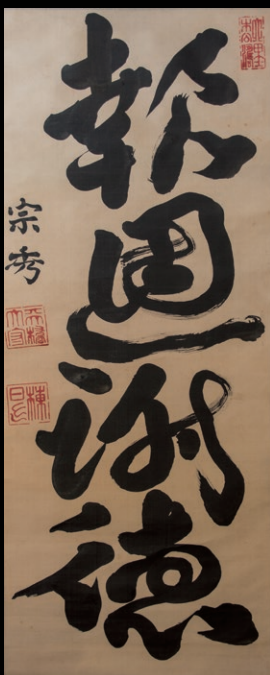
連携展示 本庄宗秀筆「蛭子像」を展示!

文化遺産調査特別展「谷文晁の末裔-二世文一と谷派の絵師たち-」
会場：足立区立郷土博物館(東京都足立区大谷田五丁目20番1号)
会期：10月1日(土)～12月5日(日)
*詳細は足立区立郷土博物館にお問い合わせください。

京都府域展開アートフェスティバル

「ALTANATIVE KYOTO —もうひとつの京都—
想像力という<資本>」in 宮津・天橋立

会期：9月24日(金)～11月7日(日)
作品ライトアップ：18:00～21:00
史跡丹後国分寺跡にて彫刻家ヤノベケンジ氏作品
《ラッキー・ドラゴン》、《黒い太陽》を会期中全日展示
11月5日(金)～7日(日)には、18:00から不定期で
《ラッキー・ドラゴン》によるパフォーマンスを実施



②



③



本庄宗秀筆
「蛭子像」
(加悦機業組合蔵)

令和3年度 特別展

徳川綱吉・桂昌院と宮津藩本庄松平家

玉の輿大名家の 栄光と苦悩

宮津藩本庄松平家は、宝暦八年(一七五八)以降明治維新まで宮津藩主を務めました。本庄氏は藩祖・本庄宗資が江戸幕府五代将軍徳川綱吉の母である桂昌院の弟であったため、綱吉に取り立てられ大名となります。桂昌院はもと玉輿という名前で、一説では八百屋の娘とされています。そこから将軍の側室まで登り詰めたことから、桂昌院は玉の輿の代名詞として知られます。また、宗資は桂昌院・綱吉のもとで寺社や朝廷儀礼の再興などに大きく関与しました。

二代資俊の時代にはさらに松平姓を与えられ、以降歴代藩主は松平姓を名乗り、幕府の要職に就くような家格にまで登り詰めます。その一方、このことが藩財政の悪化やそれに伴う一揆の発生といった、江戸時代後期における本庄家の苦悩の要因にもなりました。

本展示では、近年新たに発見された宮津藩本庄家関係資料を紹介し、激動の時代を生きた本庄家のあゆみを紐解きます。

掲載資料

- ①太刀 銘 来国俊(宮津藩本庄松平家伝来)
愛知県名古屋市・刀剣ワールド財団蔵
- ②本庄宗秀筆「報恩謝徳」 個人蔵
- ③色々威本小札胴丸(本庄宗資奉納) 善峯寺蔵
- ④阿弥陀如来立像及び厨子(桂昌院念持仏) 大頂寺蔵
- ⑤徳川綱吉御内書(宮津藩本庄家関係資料) 個人蔵

アクセス

京都丹後鉄道宮豊線「天橋立駅」または「岩滝口駅」から丹海バス伊根方面行き「丹後郷土資料館」下車または「国分」下車徒歩5分
「与謝天橋立IC」から車で10分

